法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-12

<フォーラム>第2回例会（シンポジウム）「沖縄で研究すること　沖縄を研究することの意味」開催報告 ： 第2回例会（シンポジウム）・講演 ： 「本籍人口数」とは何か ： 沖縄の小さな島で考えた，島嶼を豊かにする人口の膨らませ方

NAKAMATA, Hitoshi / MAEHATA, Akemi / 前畑, 明美 / 中俣, 均

(出版者 / Publisher)
法政大学地理学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
JOURNAL of THE GEOGRAPHICAL SOCIETY OF HOSEI UNIVERSITY / 法政地理
(巻 / Volume)
55
(開始ページ / Start Page)
61
(終了ページ / End Page)
64
(発行年 / Year)
2023-03-20

第２回例会（シンポジウム）・講演

「本籍人口数」とは何か

── 沖縄の小さな島で考えた，島嶼を豊かにする人口の膨らませ方 ──

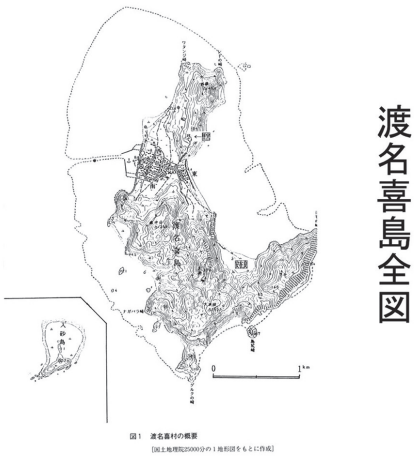
中俣　均・前畑 明美

Ⅰ．はじめに

これまで30数年間，沖縄に行かない年はなかったが，コロナ禍でここ３年は行けないでいる．沖縄に関する最新情報などをお話することが難しく，同じ所に何回も行った所の一つである「渡名喜島」について，妙なタイトルをお示ししているが，小さな島で考えたこと，どのようなことかと考え続けていることをご報告したい．私が渡名喜島に行き始めたのが1987年であり，法政大学沖縄文化研究所の所員となってすぐの頃である．この島で総合調査を実施することになり，初めて訪れたのである．

Ⅱ．渡名喜島の概要

渡名喜島（第１図）は，那覇の西，だいたい60 kmほどにある島で，那覇の泊港から出ている久米島航路の船が立ち寄っている．島には空港はない．サンゴ礁を掘り込んだ港にフェリーが入港してくる．港の北側には救急用のヘリポートがある．



第１図　渡名喜村の概要

地形図の真ん中あたり，島のやや北側に渡名喜島の集落がある（写真1）．その周囲に短冊状の畑が広がり，農業が細々と続けられてきた．主たる産業としては「もちきび」の生産がある．渡名喜島から見える島，行政的には渡名喜村に属する「入砂（いりすな）島」にはアメリカ軍のヘリポートがあり，３年に１度ほど使われている．

渡名喜島の人口は現在330人余りで，居住地域が国の「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されている島として知られている．道路から民家までの地面が掘り込まれており，台風時に身を低くして構える立て付けである（写真2）．集落全体がこうした住居形態をしていることから，沖縄文化研究所で総合調査を実施することになり，そこでの評価がいわゆる「重伝建地区」指定へとつながっていく．沖縄県では竹富島（1987年）と渡名喜島（2000年）の２島が重伝建地区に指定されており，渡名喜島では毎年，建物の修復・復元が行われているところである（写真3）．夜になるとライトアップされているが，星が見えなくなったという話もある．20年ほど前には，歩いていると玄関先でヤギをつぶしている光景がみられたが，今は公にはやってはいけないことになっている．

写真１　渡名喜村の集落

写真２　渡名喜島の民家

写真４　渡名喜村役場

写真３　建物の修復・復元の様子

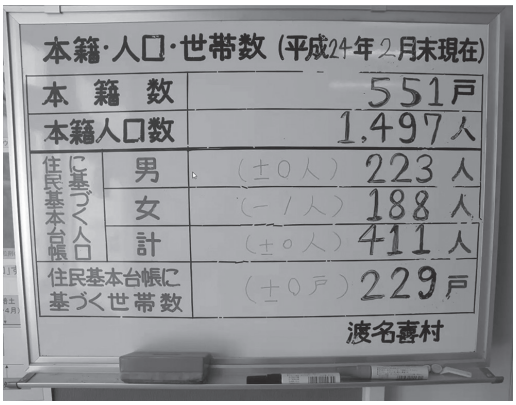


写真５　渡名喜村役場のホワイトボード

島にはレンタカーのように島中を観光できる，一人乗りの車が 10 台ほどある．その原資は「沖縄米軍基地所在市町村活性化特別事業」であり，入砂島に米軍基地があることによって島に交付金が下りてくる．

Ⅲ．渡名喜村役場のホワイトボード

渡名喜島には新しく造られた役場があり（写真 4），中に入るとホワイトボードがある（写真 5）．平成 24 年，住民基本台帳人口が 411 人とある．たいてい日本の役場ではこうした人口統計が使われているが，渡名喜島の場合にはその上に「本籍人口数」が書かれている．本籍をここに持つ人が 1,500 人ほどおり，実際の居住人口となる住民基本台帳人口の 4 倍弱の人が存在することを示しているのであり，そのことの意味を私は考え続けてきた．

試みとして，渡名喜島や粟国島，沖縄本島周辺，宮古，八重山など，沖縄の島々の人口の推移をみると，意外に減っていない．意外にというのは，沖縄全体の人口は微増傾向が続いているが，小さな島であってもその微増が振り向けられたかのように，人口減少によって極端に暮らしが成り立たなくなっているような島はないからである．こうしたことと本籍人口数とのつながりがあるのではないのか，考え始めていくことになる．

「本籍人口数」を役場のホワイトボードに書いて示している目的が何であるのか．まず，住民基本台帳人口の 411 人は，その人数の人々が島に居住していることの証であるが，実際に島に住んでいる人といっても病気で那覇の病院にいる人も少なくくはない．例えば世帯数でいうと 229 戸，1 戸あたり 2 人にならないが，それは夫婦の場合には片方が島外に

いることを示している．このように考えていくと，「島の人口」とはいったい何だろうかということになる．もちろん，国勢調査人口のように5年に1度集計されるものが，ある島の人口を表すのにどれほどの現実味があるのかという問題はあるが，それは別にして，住民基本台帳人口でさえもある島の実際の人口を表すわけではない．ましてや「本籍人口」は島に居住している人ではない人の方がはるかに多いのである．

Ⅳ．「本籍人口数」が意味すること

1．本籍人口と現住人口

なぜそうしたことを考え，しかも役場のホワイトボードに「本籍人口」を掲げているのか．考えていくときりがないが，結局ここでみられるのは，渡名喜島という土地とそこに関連する人口，人の数をどのように結びつけるのかという話なのではないのか．通常は住民基本台帳人口と国勢調査人口の二つであるが，本籍人口を示すことによって「島の人口を膨らませる」ことができ，これだけの人がこの島に関わっていることを役場としては示したいのだろう．そのことによって，毎日のように島の住民が役場の前を通ってホワイトボードを見た時，思い起こされるものがあるはずである．あるいは訪れた観光客などもこれはいったい何なのかと考えるだろう．

仮に，住民基本台帳人口がいわゆる「現住人口」であるとしても，現住人口は先述のように必ずしも実際に現住している人々を表わしているわけではない．では現住人口という捉え方が何なのかといえば，結局それは「土地と人間とを一対一で対応させるためのシステム」ということになる．もちろん，そういういい方をすれば本籍人口もそうなるわけであるが，実際に現住しない人の割合を考えると，現住人口は渡名喜村という土地と一対一で結びつけられているという建前が一番強く表れる人口である．しかしそうした島の人口自体も，2022年4月末時点で334人と少なくなっているが，世帯数は変わっておらず，本籍人口も変わらない．

このように考えていくと，人間，我々一人一人と土地・地面とを結びつける，その結びつけ方について，じつは我が国はもちろん，世界的にもそうなのかもしれないが，そこでは一人の人間を地球表面上のある「一地点」に結びつけ，そして捉えている．だから「人口」という概念がそうした形で表現され，それを前提として，じつはさまざまな社会的な制度が出来上がっていくのである．

2．現住人口主義がもたらしたもの

例えば「一票の価値」について，日本では片方が3倍または3分の1では不公平だということで，衆議院小選挙区ではこれから10増10減が施行されることになっている．しかしそれも本当にそのように10増10減させる，あるいはある土地にいる人間の持っている権利，選挙権を別の土地にいる人たちの持っている権利のあり方と対照して，2倍か3倍以内に抑えなければならないといわれるが，そうしなければならない理由が本当にあるのだろうか．昔，ある言語学者が，一票の価値が平等ではないということで訴えを起こした弁護士，主婦に対して，「そんなことは簡単なことである．一票の価値が高いと思うならばそこに移りなさい，引っ越しなさい，そうすればそうした問題は生じない」といったという．結局，不平等になったのは，大都市に人口が集中したからであり，その大都市の人口も本を正せば地方から出てきた人々なのだから，元に戻ればよいということになる．もちろん，これはさまざまな事柄を捨象した意見であるが，そのようにいわれてしまう面がある．都市部の人口の多さと農村部の少なさを，今のような形で平準化しようとすると，大きな誤り，つまり都市のことしか考えないような国ができたり，地方ができたりということになる．

また，例えば住所についても，「住所不定」というとしばしば犯罪と結びつけられたりする．だから住所は不定であってはいけないという思い込みが人々の中にはあるのだろう．

市町村の規模も現住人口で計られ，人口が多い所に地方交付税交付金を多く支払うしくみができているため，ことあるごとに住民票の提出を求められる．そのうちマイナンバーにとって代わるのかもしれないが，そのように土地と人間とを一対一で結びつけるという基本が強まりこそすれ，弱まる気配はない．本籍にしても，運転免許証には記載されなくなっている．それから先ほどの国政選挙時の「一票

の格差」の事例もある．

人類史に話を広げてみても，例えば遊牧民が移住するという，こうした人たちをどのように人口として捉えるのか．実際には難しく，昔聞いた話では，空中写真で家屋数を数え，一家屋あたりの人数をかけて総人数を出していたと聞いたことがある．移住から定住へという方向で人類史的には動いており，それは一人一人の人間を一ヶ所に結びつける，縛りつける，拘束する，そうした勢いが強まってきているということの証左であろう．しかしそれが行き過ぎると交付金算定の方法にも響いてくるし，例えば3.11の発災後に，避難先の自治体で先住者と同じような権利が行使できない，あるいはサービスを受けることができなかったという問題があったりする．

3. 現住人口主義からの脱却

そこで，一人の人間と地表上のある一点とを結びつけ，それが当然だという考え方でいいのかということを私は考えたのであるが，しかしそうではない兆しとして，最近では人間を一ヶ所に縛りつけるのとは異なった生き方も目立っている．例えば「ゆるキャラ」に住民票が付与されたり，日本全国で特別町民制度，いわゆる「ふるさと納税制度」が始まっている．こうした動きも，考えてみると一人の人間とある土地一ヶ所とを結びつけるのが当然という考え方から脱した，「新しい人と土地との結びつけ方」なのだろうと思う．現に私は二地点居住の形で，東京には住まずに東京で仕事をしてきた．こうした動きはコロナ禍でより強まってきたといわれており，例はほかにも沢山あろうかと思う．

V．おわりに

どのような形で，どのような方法で私たち一人一人を地面と結びつけていくとよいのか．そのように沖縄の小さな島である日気づいたことが，その後もずっと私の頭の中に在り続けている．そこから敢えて引き出せるメッセージは，渡名喜島は小さな島であるが，そこでとり行われている事柄は日本全体のこと，例えば私たち，土地と人間との結びつきのあり方，それがどのようなものがよいのかを考えさせられるような，そういうことにもつながっている．私にとっての沖縄とはまさにそういう所である．「沖縄へ行ってみると日本全体が見えてくる」とさまざまな人がいってきたが，私もそのような面で沖縄からさまざま教わってきたことになろうかと思う．

付　記

本稿は2022年12月17日，オンラインで開催された法政大学地理学会のシンポジウム「沖縄で研究すること，沖縄を研究することの意味」での中俣　均先生のご講演内容である．御療養中の先生より許可をいただき，Zoomの録画データをもとに筆者が文字化した報告稿となる．その際，若干補筆していることをご容赦いただきたい．また次に示す参考文献は，先生のご講演の関連論考であり，ぜひご参照いただきたいと思う．（文責　前畑明美）

参 考 文 献

中俣　均 1991．渡名喜島の地割制度について―昭和16年の地割組の分析から―．渡名喜島調査委員会編『沖縄渡名喜島における言語・文化の総合的研究』．法政大学沖縄文化研究所．35-56.

中俣　均 2014．渡名喜島―地割制と歴史的集落景観の保全―．古今書院.

中俣　均 2019．現住人口主義からの脱却．長嶋俊介編『別冊　環25　日本ネシア論』．藤原書店．108-110.